

思春期の高校生活だからこそ、自己形成は育まれる

故郷のメル友の HP を覗いたら、次のような一文。

「前は秋に体育祭と文化祭が行われ、丸々一週間『S高祭』でした。

数年前のトップの交代からトップの要請で春に文化祭のみが行われるようになり、…
…。」

確か「S高祭」の呼称は、我々が高校在学の際に始まったと記憶している。

この母校で7年前に創立記念日行事に招かれ、約800人の在校生を前に「福祉とアイデンティティ（「雑学BN」の講義等関係（I）P、2000.5.9.：参照）」と題して記念講演をしたことがある。

それはさておき、トップ（校長）としては、秋には受験体制に入るために春に文化祭をもってきたと推察するが、それにしても、トップダウンでこの時期（6月半ば）に文化祭とはピンと来ませんね。

「文化の日」は秋ですよ。

四季の季節感がある日本こそ、「美しい日本」ですよ。

総理が「美しい日本」とかけ声かけても、教育現場のトップが季節感無視では、「美しい日本」を感じ、文化を創造する次世代は育ちませんよね。

また、1年生は文化部（クラブ）員活動として入学して僅か2ヶ月では、2、3年生との交流も十分でないはず。

なおのこと、文化祭は日頃の活動の積み重ねの発表の場でもありますよね。1年生は置いてきぼりでも仕方ないということなのかな？

クラブ活動を通して生徒の感性を育むのも教育活動の大事なことと思うのだが……。

この辺への教育的思考・配慮もなく、進学率を気にしてのトップダウンで春に文化祭を持ってくるような教育現場では、政府の取り組む「教育再生」もあったものでないと思いませんか？

思春期の高校生活（高校進学率約98%）で、多彩な学校行事、クラブ活動等での級友との係わり合いの中で、級友の持つ色々な考え方や価値観を知る過程からこそ、自己形成は育まれるもの。

世の中の高校の進学塾化の風潮が、今の青少年による色々な事件の背景にあるのでないかとさえ思う自分がいる。

高校卒業文集に「我が高校生活に悔いなし！」と記し、また、当HPやメル友へ、「自分の精神年齢は高卒時のまま」と公言（？）する我が身としては、今の高校のあり方への疑問は、特に強い！

この記事で「40数年前の母校への懐古に過ぎない」と、一笑に伏さないでくださいね（*^_^*）